

全建総連 第64回 定期大会

諸要求実現に向け団結誓う



全国の仲間の団結を確認しました

10月25日から27日、全建総連第64回定期大会が群馬県高崎市「Gメッセ群馬」で行われ、全体から1,330人、道連から21人が参加。大会諸役員には高橋社会労働部長が大会議事運営委員長に選出され、国保組合の育成・強化、現行補助水準確保、働き方改革への取組み、CCUSの推進、インボイス制度の見直しなどのスローガンを確認し、全国の総力で運動を前進させていくことが確認されました。

重点運動課題としては、「持続可能な建設業の実現に向けた100万人国会請願署名」への取組みや賃金・単価引上げの要求運動、CCUS普及・活用促進、建設国保の育成・強化、基礎組織および事務所と若年層の拡大強化、など12項目が提案されました。

秋田建労からは、7月の秋田県豪雨災害への支援に対する感謝の意が述べられたほか、三重県労働組合からは、CCUS普及と前進を求める発言があり、これに対し勝野書記長からは、普及のためキャリアアップの活用を進めているなどの答弁がなされました。

大会2日目は、9つの分科会に分かれ、専門部ごとの経過と運動方針について各部長から報告と提案がありました。

3日目に各分科会報告がなされ、団結カンパニーで閉会しました。

【佐藤賞金税金部委員 参加者コメント】

全国からの組合員が参加することでまずは参加者の多さ、会場の大きさに驚きました。2日目の分科会では、議案書以外のことで古川顧問弁護士の話も聞けてとても勉強になりました。道内の組合員とも、コロナ禍以降久しぶりに進捗を深められ、有意義な3日間となりました。



道連組織人員(9月末) 1万5,067人に

道連は「組織の1%増」を目指し、6月8月の組織拡大月間に取り組みました。その結果、今年7月末の組織人員は1万4,965人と目標の1%増を達成。8月末には1万5,017人となり昨年までの5カ年計画の最終目標であった1万5,000人もも到達することができました。ご協力いただいた組合員及びご家族の皆さま、誠にありがとうございました。

61万人組織を堅持

全国では厳しい状況が続き、6月末の組合基本調査の結果では、全国61万4,090人となり、6月末時点としては引き続き減勢基調となりました。しかし10県連・組合が年間増勢を果した、6県連・組合が最高増勢を更新するなど、全国の奮闘により、全建総連61万組織を守り抜く結果となっています。

道連の9月末時点での組織人員は1万5,067人となり、増勢を更新しています。引き続き、今回の取組みの4つの重点課題、「①組合窓口での声掛け運動、②役員、書記局と同行した訪問活動、③社会保険加入における健保適用除外の周知・指導、④一人親方労災への加入・加入促進」を継続し、「1%増維持」をさらなる組織飛躍へご協力くださいますようお願いいたします。

100万人署名 持続可能な建設業求めて

全建総連では、持続可能な建設業の実現に向けた100万人国会請願署名として、「建設労働者の雇用改善、担い手確保・育成に関する請願」を行います。実施期間は23年11月から24年3月末、地元国会議員事務所への最終的提出期限は同年4月12日です。

厚生労働省では、「建設労働者の雇用の改善等に関する法律」に基づき、21年4月に策定された建設雇用改善計画の見直しが25年

には建設業法等の改正が見込まれます。建設労働者の長時間労働は是正や週休2日制の推進、適切な賃金水準の確保などの雇用改善は喫

る有効求人倍率の高止まりの解消も急務となっており、建設労働者数の減少に歯止めがかからない場合は、社会資本の維持管理、更

善に向けては、建設業共有の制度やインフラである建設キャリアアップシステム(CCUS)を活用し、建設労働者の減少を抑制し、建設業の持続可能な発展を促すことが重要です。

請願項目は、「①建設労働者の雇用改善、能力開発の推進及び向上を図るとともに、高い水準の賃上げに向けた環境整備に努めること。②建築大工をはじめとした若年者の入職・定着を促進し、建設業の担い手確保・育成を推進すること。③建設キャリアアップシステム(CCUS)の普及促進を図ること。」の3項目です。目標数達成に向け各組合組織的な重要なお取組みの推進をご理解いただきご協力をお願いします。

第64回定期大会 岩手県 北東のつながり強く



竹谷組織部長からの講演

北東地協は9月27日から28日の2日間、岩手県盛岡市「ホテルニューカリーナ」で第64回定期大会を開催。道連から11人、全体で100人が参加しました。

冒頭では三浦地協副会長(青森県連)より開会あいさつのおと、高橋地協会長(岩手県連)から「4年ぶりに分科会も含めた通常開催となり大変嬉しく思っている」との開会挨拶があいさつがあった。

工藤副中央執行委員長からは、「分科会では各

道連連・組合の意見を出し合い、北東地協の力を発揮して現在の状況を打開していきたい」との全建総連代表あいさつがあり、議事がスタートしました。

議事では、第63年度経過報告、決算報告、監査報告のおと、第64年度事業計画および予算案が提案、承認されたほか、今年7月に見舞われた秋田県豪雨災害に対しては、地協各同県連より見舞金60万円が贈られ、高橋清一郎北東地協会長から秋田建労の照井組合長へ手渡されました。

分科会では、八ヶ岳親戚会では和やかな雰囲気の中で、北海道の親睦を深め、来年度は秋田での開催となる第65回定期大会での再会を誓い合いました。

2023年6月1日~9月末日組合員増減数

単組名	加入	脱退	純増
札幌	351	174	177
小樽	18	15	3
苫小牧	18	9	9
室蘭	18	12	6
岩見沢	18	12	6
砂川	8	7	1
滝川	18	21	-3
名寄	8	2	6
北見	109	101	8
留萌	0	3	-3
函館	39	20	19
網走	7	3	4
深川	2	0	2
八雲	3	1	2
江差	8	6	2
沼田	10	4	6
美唄	12	8	4
稚内	1	1	0
旭川	26	24	2
紋別	10	8	2
岩内	0	2	-2
倶知安	17	7	10
浦河	4	0	4
釧路	36	26	10
江別	24	7	17
音更	105	41	64
恵庭	16	13	3
合計	886	527	359

2023年度 賃金等生活実態調査 土曜休増加傾向

「賃金等生活実態調査」は、毎年6月の賃金実態や収入、休日などに関してアンケート調査しているものです。今年の実績は、道連全体で1,309人、回収率は43.6%。「従業員・職人」が791人、「一人親方」が217人、「事業主・親方」が301人となりました。

【従業員・職人 791人】
『物価上昇等による昨年度年収への影響』は、「増加した」13.4% (前年比7.2%増)、事業主・親方14.6% (前年比6.6%増)と、どの事業形態でも回復傾向がみられました。『インボイス制度への対応』では、「一人親方」「課税事業者で対応済み」が35.0% (前年比19.2%増)、「免税事業者から変更なし」が36.9% (前年比10.0%増)と増加したほか、無回答が2.8% (前年比15.8%減)と減少。事業主・親方「免税事業者から変更なし」が14.6% (前年比18.1%減)と減少した一方で、「課税事業者で対応済み」が62.8% (前年比23.1%増)と大半を占めました。全体で大幅な変動がみられ、制度の導入が迫った今年度は対応への関心が高まったことがわかります。

【一人親方 217人】
一日平均賃金の職種別内訳では、「塗装・看板」が19,167円 (前年比1,226円増)、「電気工」が20,250円 (前年比3,750円増)、「空調・給排水配管工」が16,789円 (前年比2,925円減)と各職種で変動がありました。

【事業主・親方 301人】
『土曜日を休日として定めている』では、「定めている」が39.5% (前年比15.2%増)と大きく増加しました。